

# 韓国における原子力発電所の放射線区分ゾーニングに関する考察

ヨンギョン キム

韓国原子力安全技術院

Email: k182kyk@kins.re.kr

原子力発電所の放射線（管理）区分のゾーニングは、放射線作業者を過剰な被ばくから防護し、被ばくの ALARA を保つうえで重要な役割を果たすものである。原子力発電所の放射線区分のゾーニングの実施は、原子力発電所を規制するために規制枠組みにおける放射線区分の要件に基づかなければならない。

放射線区分のゾーニングに関する比較は、韓国の原子力発電所のために作られたものである。放射線区分の複数のゾーニング（ゾーン 1～6）は、放射線レベルに基づいて適用される。なお、放射線区分のゾーニング範囲での詳細値は、特に第一ゾーン（ゾーン 1）でも様々である。ゾーニング範囲は様々であるが、関連する規制には一致している。

2014 年 12 月に韓国の原子力規制システムをレビューした IAEA の IRRS により、現在行われている放射線区分に追加して、規制の枠組みに監督される区分という概念（すなわち、管理される区分）を導入すべきという勧告が示された。そのレビューに基づいて、監督される区分というものが韓国で取り入れられたとしても、原子力発電所における現在の放射線ゾーニングにおいては、多少の変更をすることでその概念を受け入れることができ、またその変更は、原子力発電所における放射線防護計画全体に影響を及ぼすものではない。

キーワード：放射線区分ゾーニング、管理される区分、監督される区分、韓国